19) 京都・東寺の夜叉神堂の民間信仰について

A Study on the folk faith of Toji Yashajindo in Kyoto.

池園歯科研究会　○湯浅　高行
藤野　珦男
日本歯科大学　屋代　正幸

Takayuki Yuasa, Yoshio Fujino, *Ikezono dental research group*
Masayuki Yashiro, *The Nippon Dental University*

医療が未発達な時代に，歯痛をともなう口中病は，日常化した病気として庶民の悩みであったことは想像に難くない．近代的歯科医療のなかった時代，その苦痛は程度の差はあっても多くの人々が耐え難い日々を送っていたに違いない．そのため，昔から歯痛に関する俗信・迷信が多く生まれ，身近にある神仏が信仰の対象となっていったのは自然のなりゆきだったと思われる．

このようにして，庶民は，その習俗の中で生きてきたと思われるが，今回は，京都・東寺の夜叉神堂の歯痛封じ祈願をとりあげた．

『近畿の民間療法』に，「夜叉神には雌雄の二神あり，それぞれ小堂に祀られているが，歯痛のときにはこの両堂の雨だれの土に白豆を埋めて治りましたら掘り出しますからと言って祈る」とあるが，現在もこの信仰がなされているか否かを調べてみた．

結果は，今でも歯痛封じ祈願に訪れる人はわずかであるがいるようだが，残念ながら，堂前の土に豆を埋めて祈るという習俗は，今では見られないようだ．

文明が発達し医学が進歩しても，人間の病いそのものがなくなることがないように，人間が病いに寄せる畏れと祈りの心性は，いつの世でも変わらないものと思われる．

20)「済生学舎医事新報第一号」について

Medical Journal of Saiseigakusha

日本大学松戸歯学部　○石橋　肇
卯田　昭夫
米長　悦也
渋谷　鉱
谷津　三雄

Hajime Ishibashi, Akio Uda, Etsuya Yonenaga, Koh Shibutani and Mitsuo Yatsu, *Nihon University School of Dentistry at Matsudo*

小池猪一著「図説　日本の“医”の歴史　上通史編」によると，済生学舎は医師開業試験受験生のために明治9年（1876）4月長谷川泰によって開設された私立医学校であり，この済生学舎は長谷川個人の意思により明治36年（1903）8月に閉校したが，この27年間の入学者数は2万余人，そのうち医師免許を取得した者は1万人を数えたといわれ，わが国の西洋医師増員政策に大きく貢献した，とある．

今回，この済生学舎に関連する済生学舎医事新報社発行の「済生学舎医事新報第一号」の概要を報告した．

資料としたのは本学資料室の架蔵本「済生学舎医事新報第一号」で，大きさが15.6×22.6 cm大の洋本である．

本書の構成は最初に広告4ページ，目次2ページ，発行の主意2ページ，本編78ページ，済生学舎講義録4ページ及び最後に広告12ページからなっている．

本誌の裏表紙をみると「明治二十六年一月十五日印刷，同出版」並びに「発行所　済生学舎医事新報社」とある．

本誌の内容を目次から概観すると論説として「皇国医学沿革史一班」，内国医報として［第一］原著「肺結核病ニ於ケル稽留熱ノ原因」他5篇，［第二］済生学舎臨床講義「黴毒性右側半身癲癇ノ一症」他1篇，［第三］本邦医学ノ進歩「漆ヲ注入料トスル法」他5篇，外国医報として［第一］解剖及生理門「皮膚ノ淋巴道及淋巴行」他4篇，［第二］病理及治療門「二三ノ新蛋白反応ノ実地上応用」他37篇，［第三］衛生及法医門「乳汁中ノ結